

特集 3 第5次安全5ヵ年計画「安全ビジョン2013」の策定

二つの新たな視点で、 「安全」をさらなる領域へ



●「安全」は経営の最重要課題

JR東日本は、会社発足時から一貫して、「安全」を経営の最重要課題と位置づけています。「グループ経営ビジョン2020 -挑む-」においても、「ゆるがぬ決意」として「究極の安全」を目指し、安全性の向上に絶えざる挑戦をすることとしています。具体的には、自らの「運行」や「保守」の仕組みのレベルアップにより防ぐことができる事故はゼロにします。さらに、自然災害のような外的要因によるリスクについても着実に低減させていきます。加えて、踏切やホームの安全性についても、お客さまや社会と協調しながらさらなるレベルアップを図ります。

●「安全ビジョン2013」の策定

JR東日本はこれまでに4度、安全の5ヵ年計画を策定し実行してきました。安全設備に対して、累計2.2兆円の計画的な投資を継続するなど、鉄道の安全性向上に大きな効果がありました。

今回、5回目の安全5ヵ年計画となる「安全ビジョン2013」を策定しました。このビジョンの大きな特徴は「安全に関する人材育成・体制の充実」と「想定されうるリスク評価による事故の未然防止」という二つの新たな視点を盛り込んだことです。

具体的には、鉄道の安全を担う人材として、「安全指導のキーマン」と「安全のプロ」の育成に取り組めます。「安全指導のキーマン」は、安全に関するさまざまなことを熟知し、社員への指導と後継者づくりが行える人材で、これを現業機関ごとに配置していきます。一方「安全のプロ」は、安全知識の熟知に加え、事故や異常時に発生する問題への対処や、現業機関に対して適切なアドバイスができる人材で、こちらは支社等ごとに配置していきます。これらの人材が、支社などでの安全対策を策定する際に強力なリーダーシップを発揮できるようにしたいと考えています。

もうひとつの「事故の未然防止」においては、新たな評価手法により、事故のリスクを評価することで、今まで幸いにも大きな被害になっていないために結果として過小評価されている事故などについても、起こり得る最悪の事態の評価を行い、その結果、優先度の高いものから対策を行うという仕組みを策定しました。

また、安全の問題に取り組むにあたっては、真の現場主義に基づき、現状を正しく認識するため、「現地・現物・現人」すなわち「三現」を定義して、その「三現主義」をJR東日本の行動基準として明確に打ち出したことも今回のビジョンの大きな特徴です。

●「安全」はあるものではなく作るもの

安全は初めからあるものではなく自発的に作るものです。そのためには私たちJR東日本グループ社員全員が自分たちの弱点を見出して、自ら課題を設定して解決する、すなわち、「安全ビジョン2013」のサブタイトルになっている「自ら考え自ら行動」をしなければなりません。私たちは、一人ひとりの英知と努力を結集し、さらに安全レベルを高めていきたいと考えています。



代表取締役副社長
社長補佐（全般）
鉄道事業本部長
小縣 方樹